

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

鹿児島県 鹿児島市立長田中学校

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和7年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2025年4月～2026年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

※実施校の時間割に準じて対応いたします。

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



写真・映像等を使用
した自己紹介
学習内容の確認



オリンピック自身の
経験に基づく「オリ
ンピックの価値」等
を伝える



個人またはグループ
ワークで話し合った
内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。

※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：萩原 次晴 先生（スキー／ノルディック複合）
【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2025年10月21日(火)
■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



長野1998冬季大会のスキー／ノルディック複合競技に出場したと自己紹介。ノルディック複合競技とはスキージャンプとスキー板を履いたまま走るクロスカンリースキーの2つの競技を1人で行うと説明。運動の時間は、滑る動きを取り入れた運動を楽しみながらオリンピックを身近に感じてほしい。体育館を全員で走った後、体育委員の合図に合わせてラジオ体操第2と補強運動を行う。

○主運動 等



主運動は滑走リレーを実施(全2回)。片足にモップシューズを履き、床を滑るように走る。折り返し地点のコーンを回り、スタート地点に戻り次の走者に交代し、班毎の順位を競う。ただ走るのではなく滑る感覚を楽しんでほしい。実施の前に走順を決め、各自モップを履いて練習をする。2回目は折り返し地点でモップシューズを反対の足に履き替えるルールに変更。途中作戦タイムを設け、転ばないように滑る方法や上手く折り返し地点を回る工夫を話し合う。



滑走リレーの体験は、普段の生活の中では行わない動きだが、上手くできたと思う。スポーツだけではなく得意な事と、苦手な事が誰にでもあると思うが、1人1人誰もが素晴らしい才能を持って生まれてきている。出来ないと思っても試さないのはもったいない。色々なスポーツ等にチャレンジすることで、体のセンサーを発達させてほしい。座学の時間は、オリンピックバリューについて皆と一緒に考えたい。最後に頑張ったことに全員で拍手を送り合い、授業終了。

- オリンピック：萩原 次晴 先生（スキー／ノルディック複合）
【出場オリンピック／長野1998冬季大会】
- 期 日：2025年10月21日(火)
- ク ラ ス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。顔がよく似た双子の兄もオリンピックに出場した。兄と間違えられることが嫌で必死に頑張った。スライドを見ながら夏でもスキーを履いて練習したと話す。子供の頃からスキー競技をしていたが、オリンピック出場を目指したのは20歳を過ぎてからだった。周りからは無理だと言われたが、努力を重ねた結果オリンピックに出場することができた。オリンピックバリューはオリンピックに出場した人だけが感じるのではなく、皆の日常の中にも沢山ある。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：普段の生活で、オリンピックバリューに当てはまる瞬間や出来事について考えてみよう。

発表：エクセレンス：「良いプレーをして勝利し、達成感を感じたいために一生懸命に練習をする」等

フレンドシップ：「お互いに教え合う」「怪我した友達を助ける」「合唱で皆と協力して唄う」「緊張している仲間を励ます」等

リスペクト：「勝ち負け関係なく相手を認め尊重し合う」「萩原先生を尊敬し出会いに感謝する」等



座学の時間を振り返り、皆の心の中にもオリンピックバリューに当てはまる気持ちが沢山ある。その気持ちをこれからも持ち続けてほしい。スポーツに限らず、勝者がいれば必ず敗者もいる。仲間がいてライバルがいるから達成感も得られる。敗れてしまった人にも拍手を送り、一緒に称え合うことはとても大切なことだ。来年2月にイタリアで冬季オリンピックが開催される。今日の授業で考えたオリンピックバリューを思い出しながら、選手達の活躍に注目し応援してほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：萩原 次晴 先生（スキー／ノルディック複合）
【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2025年10月21日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



長野1998冬季大会のスキー／ノルディック複合競技に出場したと自己紹介。ノルディック複合競技について写真を見ながら、スキージャンプとスキー板を履いたまま走るクロスカントリースキーの2つの競技を1人で行うと説明。運動の時間を通して、オリンピックを身近に感じてもらうために、スキーの動きを取り入れた運動を実施する。滑ることを楽しみながら取り組んでほしい。体育館をゆっくり走った後、体育委員の合図に合わせてラジオ体操第2を行う。

○主運動等



主運動は滑走リレーを実施(全2回)。片足にモップシューズを履き、床を滑るように走る。折り返し地点のコーンを回り、スタート地点に戻り次の走者に交代し、班毎の順位を競う。ただ走るのではなく滑る感覚を楽しんでほしい。実施の前に走順を決め、各自モップを履いて練習をする。2回目は折り返し地点でモップシューズを反対の足に履き替えるルールに変更。途中作戦タイムを設け、転ばないように滑る方法や上手く折り返し地点を回る工夫を話し合う。



モップを履いて走ることは普段経験がなかったと思うが、皆が楽しんで取り組んでくれて良かった。普段やらないことに挑戦すると初めは上手く行かないこともあるが、ぜひ色々なスポーツに挑戦してほしい。挑戦することで皆の眠っている才能を呼び起こしてほしい。得意なことを伸ばすことも、苦手なことに取り組むこともどちらも大切だ。座学の時間は、オリンピックバリューについて皆と一緒に考える時間にしたいと話し、授業終了。

■オリンピック：萩原 次晴 先生（スキー／ノルディック複合）

【出場オリンピック／長野1998冬季大会】

■期 日：2025年10月21日(火)

■ク ラ ス：2年2組／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



映像を見ながら自己紹介。幼少期から双子の兄と一緒に切磋琢磨して練習に励み、一緒にオリンピックにも出場した。顔が似ていることで良く間違えられ、悔しい思いをしたこともあったが、だからこそ自分もオリンピックに出場したいと強く思った。オリンピックシンボルの5つの輪は5つの大陸が手を取り合う姿を表している。オリンピックバリューは皆にとっても大切な価値であり、日頃から意識してほしい。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：普段の生活で、オリンピックバリューに当てはまる瞬間や出来事について考えてみよう。

発表：エクセレンス：「3キロの水泳を最後まで諦めずに泳ぐ」「ピアノを弾けるように頑張る」「体育祭を一生懸命に頑張る」等

フレンドシップ：「部活の試合を皆で協力して頑張り勝利する」「チームワークを意識する」「仲間とハイタッチをする」等

リスペクト：「尊敬し拍手をする」「相思相愛」「審判に感謝する」「ズルをしない」「譲り合う」「他人を尊重する」等



グループワークの発表を聞いて、皆の心の中にはオリンピックバリューが既に備わっていると感じる。来年2月にミラノ・コルティナ2026冬季大会が開催され、日本の選手達も活躍が期待されている。オリンピックを観戦しながら、選手の頑張ってきた姿を想像したり、家族との絆等を自分の生活や友達関係と重ね合わせながら、オリンピックバリューを思い出してほしい。今日の授業を通して、少しでもオリンピックを身近に感じて貰えたら嬉しいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■修了証贈呈

